

森林限界を抜けて

副会長 山下 紫 (50期)

主な担当業務：弁政連、市民会議、災害対策、紛議調停、弁護士倫理、業務妨害、法制、国際、子どもの人権、犯罪被害者、骨髄等提供、公害・環境等



目を見張る景色

登山経験のある方ならご理解いただけると思うが、ある程度の高山にチャレンジしようと思えば、登山口から入ってまもなく高い木々が茂る薄暗い登山道に入り、延々と、そして黙々と歩み続ける必要がある。山の天気は変わり易く、時に雨に降られるし、偶にしかない道標で自分の足だけを頼りに歩み続ける。

今年、副会長（日弁連理事を兼務）に就任し、ある程度その業務に慣れてきた現在の気持ちは、登山の際、森林限界を抜けたあとの感慨にとっても似ている。現在弁護士登録満26年であるが、これまでの歩みは、自分の足下ばかりを見ていて、現在自分が高い山のどの辺りにいるのか、周囲の景色も殆ど見通せていなかった。ところが、4月になって森林限界に到達し、周囲には膝丈位の低木しかなく、どこが頂きか、周囲にどのような山が連なっているのか、一気に見渡せるようになった。現在、更に更に歩みを進め、可憐な花を付ける高山植物に癒やされる短い夏を終え、今は草も生えなくなった岩だらけで一切日陰のない道を歩んでいる。見通しは更に良くなり、頂上（日弁連）が常に見える高さになり、登ってきた登山道や麓の様子等、いろいろなものが見えてきた。これほど高い場所まで来たことのない私にとっては少し恐れを感じる程の高さであるが、それぞれ別のルートから登ってきた副会長や監事と合流でき、一人ではないので、遠い昔の遠足のような高揚感もある。

多様な仕事と圧倒される情報量

副会長の仕事は、実に多岐にわたる。総会や常議員会、担当委員会等での働きぶりは会員から見易い

ところであろうが、他にも、毎月ある日弁連理事会の審議事項や要請事項の予習と事後の会内向け報告、週2回の理事者会への参加、会長声明の起草、職員との日々の打合せや、職員人事への関与、他会や他団体との交流などがある。特にやりがいを感じるのが職員からの相談事項への対応であり、単年度の理事者に対し、嫌な顔ひとつせず、これまでのやり方等をレクチャーしつつ決裁を仰いでくださる。

また、毎日、脳内の処理が追いつかない程の情報に接している。紛議調停・懲戒請求・市民窓口等不祥事関連の情報は常に理事者間で共有されている。また私の場合、依頼者の本人特定事項の確認等に関する協議会や会務活動等運営特別委員会を担当している関係上、自宅や事務所移転の届出未了、病気等のため執務していない、子の養育・介護のため会務免除申請中など、さまざまな事案に接する。メンタル面での疾病や心疾患・難病等で自分よりも若い会員が執務ができないとの情報に接するにつけ、振り返って自分と家族が健康であること、日々執務できていることに感謝の念を抱かざるを得ない。

下山こそ注意

副会長を経験させていただいたことは、必ずや一生の財産になると感じている。

登山は、きつい登りよりも、下山こそ滑落や膝を痛める危険があり、気を抜いてはいけないという。副会長の務めを終えたら、頂きまで登ることなく、今年度学んだことを糧に、慎重に怪我のないよう下山を始めようと思っている。